

知り合いの市議員で後に国会議員になった加藤尚彦氏との雑談の中で、「未だ日本で流行していないミュージカルをやってみよう」と言ったら「いいじゃない、僕も好きだよ」と言ってくれたのです。今から35年も前のことです。「春さん時間ある？丁度この後神奈川区長に会うんだ。一緒に行こう」と言われ、次の瞬間には区役所に電話をしていました。「車回してくれ」と運転手に言うと10分後には2人も区長室にいました。区長も「加藤先生はいつも思いついたら直ぐの人だ」と周りの人に言っていたとのこと。話の内容は電話で伝えてあったのです。私たちの赤い靴児童劇団では、セリフ・演技が中心のお芝居的な稽古をしていました。稽古時間の半分は座って他の人の稽古を見て学ぶのですが、歌とダンスが加わればもっと楽しくなることは間違いなくと常々思っていました。

私は区長に「神奈川区には全国的に有名な浦島太郎の物語がありますが、誰でも知っているこのストーリーをミュージカルにしてはどうですか？」とその場で提案すると「悪くはないですね」とふたつ返事で決まったのです。私は帰ってからすぐ机に向かったが、知らないことが多かったのです。昔々、相模の国の三浦の里に、浦島大夫が住んでいて、彼が久しく丹後の国に赴いている間のある日、息子・太郎は、子供たちに亀がいじめられているのを見て助けあげたのです。その事に感謝した亀は、太郎を背中に乗せて竜宮城に招待したのです。楽しかったが、3年が経つ頃に故郷が恋しくなると、乙姫さまに頼んで故郷に帰して貰うのですが、その時、玉手箱と観世音菩薩像を乙姫さまから頂いたのです。ここまでではほとんどの方が知っている物語の結末ですが、調べていくと太郎の両親の墓が武蔵の白幡にあることを聞いて訊ねてみると、3年ではなくすでに300年の月日が経っていたとのことでした。菩薩は横浜神奈川区の運慶寺にあり、石塔の台座は亀になつています。12年毎にご開帳があると聞きました。七島と大口通りを流れている川に「浦島太郎が足を洗った川」、大口通りには「足洗いの井戸」があります。周辺には浦島中学校、小学校があり、校庭には亀滑り台があります。海側の街は亀住町、有名な六角橋の六角は亀の甲のことです。神奈川区のマークは亀の甲の六角です。今も街のあちこちに物語が息づいている□マンのある街は大事にしたい思い、皆で未来に繋がられたらいいなと願っています。

当時の公演では、私が脚本を、演出を畑圭之助氏が、そして赤い靴劇団と赤い靴ジュニアコーラスの団員が出演しましたが、その頃は、団員が余りにも多かったので神奈川区在住のことも達がメインキャストになりました。助成金も付くとのことで、楽しくスタートしました。このミュージカル公演は横浜全区で初めての試みでした。公演初日、東神奈川駅の前にある神奈川公会堂の周囲は2重の列ができ、観客の皆さんが開場待ちをしている様は今でも語り草になっています。見終えた後の多くの方々の笑顔も忘れられません。

私の書いた「新うらしま」では、浦島太郎が仲間を連れて宇宙に浮かぶ「ドラゴンパレス(竜宮城)」に行くのです。□ケットの胴体には「KAME88」の表示があります。□ケットが発射するシーンは観客もスタップもドキドキしながら見守りました。次々に仕掛けられた工程を見事にクリアし、舞台の上方に見えるようになった時は大成功で歓声があがりました。近年小惑星探査機「はやぶさ2」が小惑星「リュウグウ」への着陸およびサンプルリターンを行ったニュースには、親しみと感動を覚えました。ミュージカルのドラゴンパレスでは太郎たちは女官たちにもてなされ、歌やダンスを楽しみました。約束の20年が過



3月12日(日)「かながわミュージカルアワード 2023 受賞」横浜市民子どもミュージカル「横浜三塔ねご物語 2022」



2010年6月27日サンディエゴ「赤い靴はいた女の子像」除幕

今後のスケジュール

★5/5(金) こどもの日コンサート 場所：みなとみらい大ホール 時間：①13:00 ②15:30 各回1時間 料金：一般 2,500円 4歳～高校生以下 1,500円 0歳～3歳 無料
★5/17(水) 第61回いそご文化資源発掘隊 「赤い靴」と「青い目の人形」2つの童謡が繋ぐ横浜物語パート2 ～赤い靴、異国の地へ～ ゲスト：松永春 場所：杉田劇場 4F コスモス 時間：14:00 開演 (13:30 開場) 料金：1,000円
★6月25日(日) 第36期 赤い靴ジュニアコーラス定期演奏会 場所：杉田劇場 時間：14:00 (開演予定) 観覧：全員ご招待(事前申込制)
★7月30日(日) 中区ダンスフェスティバル2023 場所：関内ホール・大ホール ※広報よこはま中区版3月号にて 出演者募集中 締切4月10日
★8/26(土)・27(日) 横浜市民子どもミュージカル 場所：関内ホール・小ホール ※広報よこはま中区版4月号にて 出演者募集記事掲載中

ぎて地球に戻るのですが、昔のお寺に着くと入り口には妙な言葉が書いてあって「オランダ領事館」になっていました。髪は茶色っぽく青い目の人がいて、言葉が分からないのです。やがて通訳と言う人が来て久しぶりに日本語で説明を聞いたのです。今、日本は鎖国を止めて外国と自由に行き来するようになってきたという。突然、空でぶーんと音がし「あれ何という鳥ですか?」「鳥ではない飛行機というのです。ガソリンという液体で飛んでいるのです。人が操縦して大勢の人を乗せて移動できるのです」その下を見るとまた大きな蛇が2本の細い路を早い速度で走っています。「あれは鉄道といって人や荷物を運ぶのです。きみたちの横浜にも大きな港が出来ている。そして大きい船が外国に行ったり来たりしているよ」。□ケットで出掛けた太郎たちは、暫く地球生活を楽しむことにしたのです。ここで幕が下ります。

日本には「うらしま」発祥の地が142箇所あり、それぞれ、うちが本家とっている所もあるのだそうですが、万葉集にも日本書紀にも書いてあります。横浜市民子どもミュージカル「横浜うらしま伝説2023」は、8月26日(土)・27日(日) 関内小ホールで公演されます。脚本・演出は万田祐介先生、作曲は天野一平先生です。横浜の子ども達と昔話から飛び出した仲間達が竜宮城へ。そこには思わぬドラマが待ち受けています。今、海も環境汚染で悲鳴を上げています。さあどうすることも出来ません!

さて、第36期赤い靴ジュニアコーラス定期演奏会は6月25日(日) 杉田劇場で開催されます。第2部で合唱ミュージカル「うらしま太郎の鬼退治たいじ」を全団員で演じます。台本・作詩 小谷美智浩先生、作曲 小六禮次郎先生の作品です。今年には「うらしま年」ですね。深く楽しみたいものです。

そして、昨年の子どもミュージカル「横浜三塔ねご物語」は、「かながわミュージカルアワード」2位を受賞しました。上の写真は3月12日の風景です。今年のうらしま作品では第1位受賞を皆で確信し、これから稽古に挑みます。また、5月17日に「赤い靴」と「青い目の人形」2つの童謡が繋ぐ横浜物語りパート2「赤い靴 異国の地へ」のプログラムが杉田劇場4階・コスモスで催されます。昨年の1回目大好評だったとのことで、杉田劇場の学芸員が今回の機会を作ってくれました。右上のアメリカ・サンディエゴに贈られた赤い靴はいた女の子像の除幕式の写真ですが、女の子のモデルは赤い靴ジュニアコーラスです。今回もゲストは私ですが、磯子文化資源発掘隊の清水一徹氏は、音楽造詣に深く、私も驚く深掘りネタを公開しながらナビゲーターをさせていただきます。皆さまにお時間を調整いただいております。嬉しゅうございます。

2023年3月31日 団長 松永春